

検討会 番号	第 4 回 case8
患者年齢(代)	10 歳未満
性別	女性
<b>S (subjective) :</b> <b>主観的情報</b>	
主訴	タンパク尿、浮腫
現病歴・既往歴	<p>◆難治性頻回再発型小児ネフローゼ症候群</p> <p>3300g で出生。</p> <p>1 歳まで、夜泣き、疳の虫がキツイ。(毎日 1 時間) 癩癩は 6 歳まで続く。 (自分の意思がうまく伝わらない時に騒ぎ、暴れる。今でもごくたまに出る)</p> <p>x-2 年 3 月、花粉症症状(目痒、透明鼻汁)が出ており、両上眼瞼に浮腫(3+)、目が隠れるほど。近医の小児科で花粉症と診断。しかし服薬しても無効で、その後嘔吐、腹痛で救急搬送。入院し、ネフローゼと診断。腹水がパンパンに貯留していると指摘された。ステロイド点滴で回復し、1 か月で退院。ステロイドは退院後も内服(20 mg)で継続。</p> <p>退院 2 週後、ステロイド半量にすると、蛋白尿と浮腫が再発し、即再入院。これをこの年に 5 回繰り返す。</p> <p>x-2 年 7 月に漢方クリニックにて漢方処方開始。(入院時は中止する)</p> <p>x-2 年 9 月にステロイドに加え、免疫抑制剤使用。</p> <p>x-1 年、小学校入学。 (この年は再発、入院はなかった)</p> <p>x 年 1 月、当患者の父親(脊髄硬膜動静脈瘻)が来院。 (親戚が施術を受けている、神戸の鍼灸院からの紹介)</p> <p>x 年 3 月、蛋白尿再発(試験紙で 3+)。今回も花粉症症状が出ていた。このまま再びステロイド、免疫抑制剤と、入院を繰り返すのが嫌で、父の治療の効果があつたこともあって、鍼灸も加えたらどうかと母親が判断し、x 年 3 月初診。初診時点での漢方クリニックの処方(黄連解毒湯エキス剤+煎じ薬。初診後すぐ入院。</p>

アレルギー	食餌性 (卵、キウイ) →嘔吐のみ スギ花粉→透明鼻汁、目痒 (薬不使用)
手術・事故・出産	なし
家族歴	(父)脊髄硬膜動静脈瘻で下肢痿軟、跛行 (母)倦怠感、貧血の既往
初診時服薬情報	漢方 (エキス、煎じ)、ステロイド、免疫抑制剤
<b>O (objective) :</b> 客観的情報	
初診日	x年3月
所見(脈・舌・バイタル等)	(バイタル)平脈、上背部やや熱感 (脈)弦脈であるがやや無力 (舌)淡紅色褪せ、舌尖紅点膨隆、薄白乾苔、有力 (腹)右胸脇苦満、小腹不仁、左少腹急結、左右梁門、左側腹部に過緊張
	(硬結)(圧痛)左大衝、衝陽実、右腕骨、外関実 (腫脹)特に無し (陥凹)5、6椎が陥凹
<b>A (assessment) :</b> 評価	
評価・弁証	(弁証)肝脾同病≒腎陰虚
	(評価法)四診合参 (流派)北辰会方式
<b>P (plan) :</b> 計画 (治療)	
計画・治療・指導	(取穴)左梁門接触鍼 (プラチナ)
	(刺鍼法)垂直に接触 (時間)約1秒
	(得気)有 (深さ)接触のみ
	(頻度)週1, 2回
	(養生指導) 食事: カフェイン類、肥疳厚味の制限、補腎、理気、降気作用のある食品を適宜摂るよう指導。 運動: 炎症がきつときは安静、平生は有酸素運動を軽めに。 体温調節: 足腰を冷やさないこと。
経過	x+1年3月までに、およそ1/wで治療を継続し、約70診した。  初診後、倦怠感が取れて、二便がしっかりと出たこと、ご主人の経過も良かったこと、漢方クリニックと当院に連携関係があったことから、患者の母親が信頼して下さった。 x年5月、足関節周辺に皮膚炎。 x年6月、疔積が出るがあった。

	<p>x年7月、イライラしがち  x年8月、軽い感冒様症状から、ネフローゼ再発、蛋白尿、発熱するも、ステロイド30mgのみで、初めて入院せずに済んで喜ぶ、漢方クリニック処方で黄耆増量。  x年9月、ステロイド離脱。皮膚炎が出た。  x年11月、37°C発熱するも、すぐに解熱。  x+1年3月、体調安定しているが、軽度の皮膚炎がある。</p> <p>全体を通じて、補腎や補脾よりも疏肝、清肝を主軸としながら、肝脾の調理をメインにした治療を行っている（すべて一貫して接触鍼にて対応）</p> <p>◆以下、母親のコメント（治療開始後の変化）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療を開始してから、7月に一回再発したものの、初めて入院せずに済んだ。（x年の3月と7月の再発、どちらも軽い風邪気味からの再発であった） （再発してもすぐにステロイドを切れるようになった）</li> <li>2. 排便が良くなった</li> <li>3. 他覚的に、以前よりも手足の冷えが取れた</li> <li>4. 皮膚炎がマシになった（以前は全身、現在は手足の甲に少しのみ）</li> <li>5. ステロイドはx年9月以降、服用せず</li> <li>6. 免疫抑制剤（セルセプト）は主治医の判断で4月以降に漸減する予定。</li> </ol>
特記事項	<p>◆主治医は小児の腎臓専門医だが、そのドクターは東洋医学に否定的だという。</p> <p>◆過去に母親の判断でステロイド、免疫抑制剤等を間引くことがあった。（副作用を心配して）→このことから、服薬に関して、良好なアドヒアランスは期待薄な印象であるが、母親いわく、現在は西洋薬も漢方も、指示通りキチッと飲ませているし、患児本人もすすんで飲むとのこと。</p>

**【煎じ薬処方内容（初診時点）】**

山茱萸 3g 茯苓 3g 沢瀉 3g 牡丹皮 3g 山薬 4g 黄耆 6g 防風 2g 白朮 2.5g 杜仲 2.5g  
車前子 4g 生地黄 6g 菟糸子 2g 女貞子 2g

**【煎じ薬処方内容（x+1年3月時点）】**

山茱萸 3g 茯苓 3g 沢瀉 3g 牡丹皮 4g 山薬 4g 黄耆 10g 防風 2g 白朮 2.5g 杜仲 2.5g  
車前子 4g 生地黄 6g 熟地黄 6g 菟糸子 2g 女貞子 2g